

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	八代市坂本町集落交通機能編成事業
対象地域	熊本県八代市坂本町全域
活動概要	<p>① 坂本町は、かつて製紙業で栄え、ピーク時には18,000人を数えた人口も現在では三分の一以下の5,000人程度まで激減しており、加えて高齢化率も43%を越える状況にあるが、市町村合併により数的には過疎化と高齢化が顕在化しなくなったものの、現実的には人口の半数近くが65歳以上の超高齢化地域にあり、生産活動はもとより社会的共同生活の維持さえ困難となった限界集落も全集落の30%以上を占める状態にあり、もはや消滅寸前の集落も出はじめるなど深刻な事態を招いている。</p> <p>② その中において坂本町では、町内に散在する75の自治会(集落)を最小のコミュニティ組織として位置づけ、さらに8つの旧小学校区を単位とした校区コミュニティ組織を「地域振興会」として、地域活動を展開している。 162.82平方キロの広大な面積の9割以上が峻険な山間地帯であり、この広範囲な地域に集落が点在するため、居住地域と中心部とを結ぶ唯一の公共交通機関であるバス路線も全てが赤字廃止対象路線となっており、本数も少なく、廃止寸前の状態にある。 急峻な地形のため最寄りの停留所まで3km以上も離れている地域も多く、地域活動はもとより、日常の医療、福祉活動をはじめとする住民生活や生産活動にも支障をきたしている状況にある。</p> <p>③ 平成14年度まで町内に8校あった小学校も児童生徒数の減少に伴い、平成18年度には1校に統合され、これまで各小学校を中心として築き上げてきた地域のコミュニティにも大きな影響を与えはじめ、校区コミュニティ組織としての地域振興会の地域活動にも限界が出はじめている。 こうした状況を踏まえ、特に「過疎・高齢化」という坂本町全体として共通の課題に対処するためには、8つの地域振興会の連合体である「坂本地域振興会連絡協議会」が協働して、新しい校区コミュニティ組織として、共通の地域課題に対処すべきとし、住民自らの手による「過疎地有償運送事業」など新たな交通システムを導入することにより、集落交通機能の広域編成につなげるとともに地域コミュニティ組織の自立支援につなげたい。</p>
今年度の主な取組	<p>(新たな集落交通機能の整備に向けた過疎地有償運送事業等の検討)</p> <p>① 各地域がそれぞれの地域の現状と課題は認識しているものの、坂本地域全体の課題として認識するまでは至っていないことから、各地域の交通事情やニーズを把握するための現況調査(各集落の年齢構成、車の保有状況、交通手段の現況等のアンケート調査及び分析など)を実施し、早急に坂本地域全体の喫緊の課題であることの理解を深め、その解決に向けた具体的な方策を検討するための基礎資料とする。</p> <p>② 上記①の課題解決のための新たな運送事業を検討するにあたり、類似の先行事例を調査・分析し、各種団体(シルバー人材センター・社会福祉法人など)や民間業者(第三セクター・タクシー会社など)にも協力を依頼し、坂本地域にあった運送方法を2~3例選定し、一定期間の社会実験を実施し、利用者へのアンケート等を実施し事業の制度化に向けた課題の把握などを行う。</p> <p>③ ①及び②の検討結果を踏まえ、各種法や制度をクリアした新たな交通システムの社会実験を行うための準備を行う。</p>

活動結果	<p>住民自治組織の各々の地域振興会(8地域)が情報交換の場としていた連絡協議会で、2地区が地域課題として提起していた問題に、坂本地域全体で課題を共有し取り組むことができ、坂本地域全体で支える交通体系について検討していく下地ができた。</p> <p>今年度は、交通手段の確保が必要なことは認識しているが、果たして運行が実現するような「需要」があるのか、「実態」の把握と求める「交通手段」はどの「程度」(頻度、ルート、時間、利用料金)か等について、協議会の下部組織として「新たな交通機能検討委員会」を立上げ、検討を重ねることができた。</p> <p>短期ではあったが社会実験により一応のデータを得る事が出来ており、その結果を受けて、更に本格実施に向けた取組みと住民の交通手段の確保という共通認識を高めていくことができたと考えている。</p> <p>過疎化及び高齢化の中で、交通手段の確保に不安な地域の実状と、その実際の需要を本格的な社会実験により把握し、坂本地域に合った効率的で効果的な交通体系ができるよう検討していくこととし、負担すべき経費についても、受益者負担、受益地域負担、公的負担、社会的(民間企業等)負担などにおいて地域振興会が運営主体となって実現することを目標に検討したい。</p> <p>今後は、路線バス事業者と本会が検討するルートとの重複路線の検討、効率的な運行手段の検討、有料化の検討など自主運行への課題解決が必要である。</p>
当初予想していなかった効果	<p>当初の提案時点では、地域内の特に不便を来している一部の地区での検討が主になると想定していたが、全地域(8地域)から各2名の検討委員を選出し、下部組織的に「新たな交通機能検討委員会」を設け検討会議を開催し、回を重ねる毎に各地域にも問題意識が芽生え、是非自分達の地区でも取り組んでもらいたいとの意見が出されるようになり、坂本町全地域の課題として積極的かつ活発な意見が出され、協議が進められることとなった。</p> <p>結果、この取り組みをこのままで終わらせることは勿体ない、是非継続して協議し、長期の社会実験等を行い、本格的な運行につなげられるよう取り組むべきであるという意見がまとまった。</p> <p>これは、今は何とか自分で運転したり、家族など周囲のお世話になることで何とか移動手段を確保出来ているものの、43%の高齢化率がなおも増え続ける坂本町では、近い将来何らかの手立てを考えていかなければならなくなるため、よそ事ではないという意識が芽生えたためと思われる。</p> <p>また、本事業の活動を連絡会協議会の場において、坂本地域全体の課題として取り組む事例となったことから、将来的には交通面のみならず、他の「共通行事」や「一緒に活動することで効率化する活動」についての先進事例となることが期待できる。</p>
実施状況(写真)	<div data-bbox="660 1435 1136 1756" data-label="Image"> </div> <p>【写真】社会実験(試験運行)での利用者の乗車風景</p>
応募団体名	坂本地域振興会連絡協議会
リンク	-
部局/担当者名	事務局 南 和治 (八代市 坂本支所 総務課)
連絡先	0965-45-2211
推薦市町村名	-